

＜感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止＞  
**感染対策の基礎知識と具体策**

～感染症と感染経路～

所属 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

## この研修の目的

- 介護職にとって「感染症は身近にあるもの」という意識を高める。
- 感染予防・対策の重要性を理解する。
- 生活の場(=介護現場)での感染に関する正しい知識を学ぶ。
- 介護施設でみられる感染症の特性の理解をする。

MEMO

---

---

---

---

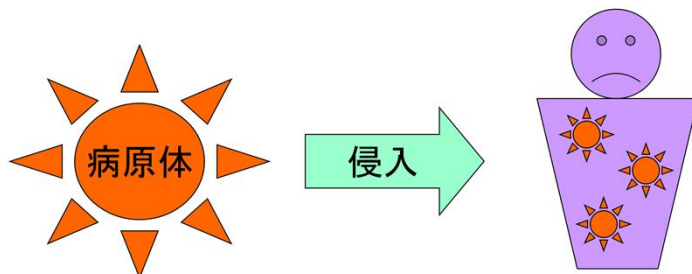
---

---

---

---

## そもそも感染症とは・・・？



「病気を起こす力を持った微生物」 ( ) が  
体内に侵入して引き起こす病気

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

## 聞いたことありませんか？ ＜病原体の例＞

- (        ) ⇒ インフルエンザ、ノロ
- (        ) ⇒ 腸管出血性大腸菌0-157
- (        ) ⇒ カンジダ菌、白癬菌
- (        ) ⇒ ヒゼンダニ

…など

このような病原体を保有し、感染を拡大させる  
ことが可能なものを(                    )と呼ぶ

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 介護職の身近にある感染源

- ① 便、尿、嘔吐物、血液、体液などが付着しているもの  
⇒ ( ) など
- ② ケアで使用した器具  
⇒ ( ) など
- ③ 手洗い、消毒をせずに取り扱った( )

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 身近に存在する病原菌

- ・黄色ブドウ球菌  
⇒ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)
- ・緑膿菌  
⇒ 多剤耐性緑膿菌 (MDRP)

健康な人に感染することは少ないが、  
( )は感染しやすい  
薬剤に耐性を持つようになった菌を  
( )と呼ぶ

### MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 集団感染に注意！

- ・ インフルエンザ（インフルエンザウィルス）
- ・ 結核（結核菌）
- ・ 感染性胃腸炎（ノロ、ロタなど）
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症（O-157など）
- ・ ノルウェー疥癬（ヒゼンダニ）

入居者だけでなく、職員の感染にも注意！

⇒（ ）が感染源となり（ ）  
を引き起こす場合もある！

MEMO

---

---

---

---

---

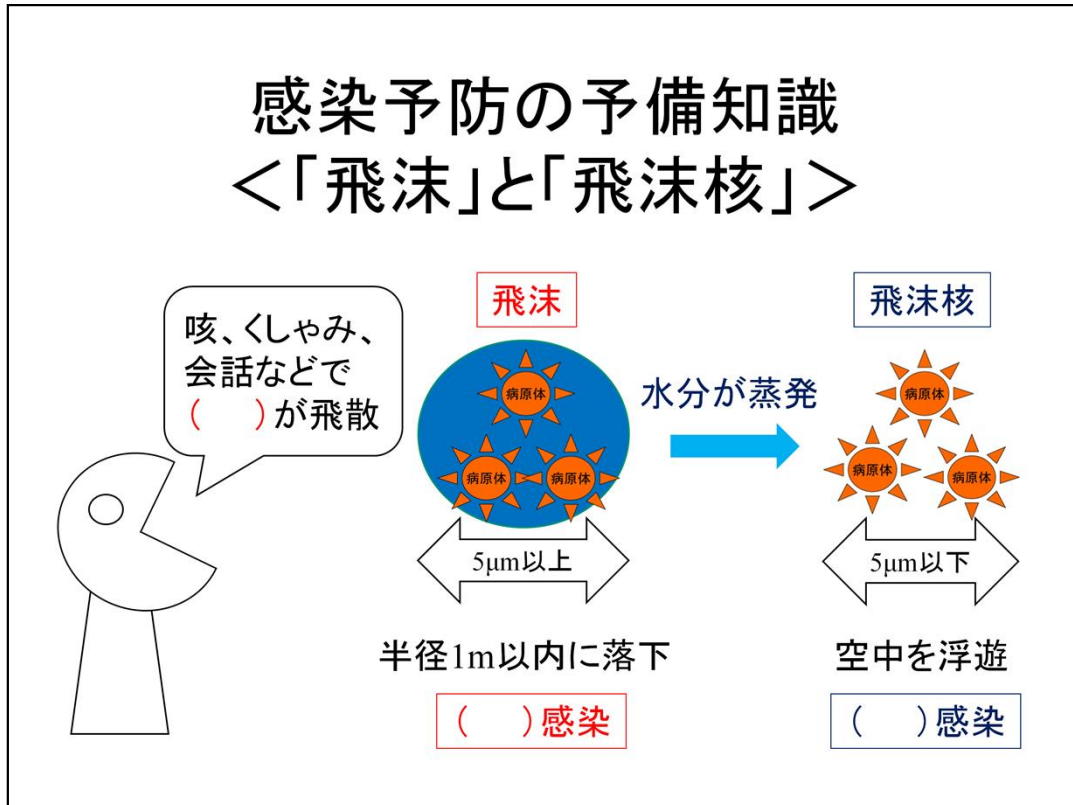
---

---

---



# 感染予防の予備知識 ＜「飛沫」と「飛沫核」＞



MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 感染予防の予備知識 ＜感染経路と病原体＞

感染経路	病原体
空気感染	結核菌、麻疹ウイルス、 水痘・帯状疱疹ウイルス …など
飛沫感染	インフルエンザ、風疹ウイルス、 ムンプスウイルス、レジオネラ菌 …など
接触感染 (経口感染含む)	ノロウイルス、腸管出血性大腸菌O-157 MRSA、MDRP、ヒゼンダニ …など
血液媒介感染	B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス (HIV) …など

### MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

# 感染症の感染経路と予防策

## ① 空気感染

【空気感染の対策が必要な病原体】

⇒ 結核菌、麻疹ウイルス、  
水痘・带状疱疹ウイルスなど

※ノロウイルスは、乾燥した吐物から空気中に浮遊し、空気感染することもある

- ・咳やくしゃみなどで飛散した( )を吸い込むことにより感染する
- ・飛沫核は( )に浮遊し続け、空気の流れにより飛散する

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

# 感染経路と予防策

## ① 空気感染

### 【感染予防策】

- ・ 感染者は( )が必要
- ・ 病院に移送するまでの間は、原則として( )
- ・ 介護時には( )を着用
- ・ 免疫のない職員は患者との( )をさける

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

# 感染症の感染経路と予防策

## ② 飛沫感染

【飛沫感染の対策が必要な病原体】

⇒ インフルエンザウイルス、風疹ウイルス、レジオネラ菌、ムンプスウイルスなど

※ムンプスウイルスは流行性耳下腺炎（おたふく風邪）の病原体

- ・咳やくしゃみ、会話などで飛散した( )  
を吸い込むことにより感染する
- ・飛沫粒子は( )に落下し、空中に浮遊し続けることはない

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

# 感染症の感染経路と予防策

## ② 飛沫感染

### 【感染予防策】

- ・感染者は原則として( ) (同病者の集団隔離とする場合もある)
- ・感染者を隔離管理できない時は、同室者のベッドと間隔を( )離す
- ・介護時には( )を着用
- ・( )を励行する

居室のドアは開けたままでも構わない

### MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 感染症の感染経路と予防策

### ③ 接触感染(経口感染含む)

【接触感染の対策が必要な感染症】

⇒ ノロウイルス、腸管出血性大腸菌O-157、  
MRSA、MDRP、ヒゼンダニなど

- ・ ( )を介して感染する頻度が高い
- ・ ( )との接触  
で感染が拡大していく

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 感染症の感染経路と予防策

### ③ 接触感染(経口感染含む)

#### 【感染予防策】

- ・感染者は原則として( ) (同病者の集団隔離とする場合もある)
- ・介護時は( )を着用、汚染物に触れたら( )
- ・( )の励行と適宜手指( )
- ・可能な限り( )の器具を使用
- ・汚染物との接触が予想される時にはガウンを着用  
※ガウンを脱いだ後は、衣服が環境表面や物品に触れないよう注意

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## ④ 血液媒介感染

- ・ ウィルス性肝炎  
(B型肝炎ウィルス、C型肝炎ウィルス)
- ・ 後天性免疫不全症候群 (AIDS)  
(ヒト免疫不全ウィルス : HIV)

ただし、( )では、人から人へ感染する可能性は低い

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

## 感染経路を遮断するために

( ) (標準予防策) を  
徹底すること！

MEMO

---

---

---

---

---

---

---